

官報

號外 昭和十五年三月五日

第七十五回貴族院議事速記録第十六號

昭和十五年三月四日(月曜日)午前十時十六分開議

議事日程 第十六號

昭和十五年三月四日

午前十時開議

第一 請願委員長報告

第二 家畜傳染病豫防法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 軍用電氣通信法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 牧野法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 輸出毛織物取締法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 長谷川君夫選舉爭訟ノ件(資格審査委員長報告)

第七 霧中大洋ニ於テノ船舶衝突豫防ニ關スル請願

第八 能登鐵道買收並豫定線三明、能登三井間鐵道速成ノ請願

第九 旱害救済施設ニ對シ國庫助成ノ請願

第十 五戸鐵道五戸、花輪線毛馬内ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願

第十一 釧網本線標茶、根室本線厚岸ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願

第十二 水産會ノ活動促進ニ關スル請願

第十三 水質汚濁防止ニ關スル請願

第十四 水質汚濁防止ニ關スル請願

第十五 水質汚濁防止ニ關スル請願

第十六 水質汚濁防止ニ關スル請願

第十七 水質汚濁防止ニ關スル請願

第十八 水質汚濁防止ニ關スル請願

第十九 水質汚濁防止ニ關スル請願

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 報告ヲ致サセマス

(佐藤書記官朗讀)

去ル一日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

家畜傳染病豫防法中改正法律案可決報告書

牧野法中改正法律案可決報告書

輸出毛織物取締法案可決報告書

請願委員會特別報告第三號

一昨二日國民體力管理法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 子爵野村 益三君

副委員長 男爵小池 正晃君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

軍用電氣通信法中改正法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

昭和十五年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

職員健康保險特別會計法案

作業會計法中改正法律案

造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案

昭和十三年法律第五十三號中改正法律案

同日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

外國爲替管理法中改正法律案

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十五回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

政府委員

對滿事務局長次長 荒川 昌二君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、鈴木喜三郎君病氣ニ付、會期中請願ノ申出ガゴザイマシタ、許可ヲ致シテ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御諮ヲ致シマス、爾今、議案配付後及各讀會間ニ於ケル定規ノ日數ヲ經ズシテ議事ヲ開クコトニ致シタイト存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

件、議院ノ會議ニ付スルヲ要セズトスルモノ二件デアリマス、以上ハ昭和十五年三月二日迄ノ御報告デアリマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第二、家畜傳染病豫防法中改正法律案、政府提出第一讀會ノ續、委員長報告、委員長保科子爵

(左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ依テ)

家畜傳染病豫防法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十五年三月一日

委員長 子爵保科 正昭

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

(子爵保科正昭君演壇ニ登ル)

○子爵保科正昭君 只今議題トナリマシタ家畜傳染病豫防法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル二月二十七日及三月一日ノ兩日ニ互リマシテ開カレマシタ、先ヅ農林大臣ヨリ提出理由ノ説明ガアリマシテ、之ニ依リマス、最近ニ於ケル家畜防疫ノ狀況ニ顧ミ、家畜傳染病豫防法中改正ノ要アリト云フノデアリマシテ、改正ノ要點ヲ簡單ニ申上ゲマス、第一、「ダニ」類以下三種ノ家畜傳染病ヲ新タニ法定傳染病ノ中ニ追加シ、第二、「家禽」コレラ等ニ罹レル家禽ヲモ殺命令ノ對象ト爲シ得ルコトトシ、第三ニ、豚「コレラ」等ニ罹レル家畜ニ付新タニ皮ノ利用等ヲ圖リ、第四ニ、屠殺場ニ於テ屠殺後、解體検査ニ依リマシテ、家畜ノ法定傳染病ニ罹レルコトヲ發見シ、焼却、埋

却等ヲセシメタ場合ニ、之ニ對シテ手當金ヲ交付スルノニアルノデゴザイマス、之ニ對シマシテ各委員並ニ特別ニ委員外議員ヨリ發言ヲ求メラレマシタ質疑應答ノ主ナルモノヲ二三申上ゲマス、先ヅ現下ノ狀況ニ於キマシテハ、家畜防疫ノコトノミナラズ、畜産全般ニ互ツテ日滿支一體ノ關係ヲ基調トシテ各般ノ政策ヲ立テルベキデアルト云フコトニ對シマシテ、政府ヨリ、日滿支ノ關係ヲ十分ニ考慮ニ入レテ政策ヲ檢討スベキ旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ家禽傳染病豫防法ノ根本精神ニ付キマシテ、傳染病ノ撲滅ヲ目的トスルモノナリヤ、又損害輕減ヲ目的トスルモノナリヤトノ質問ニ對シマシテハ、政府ヨリ、撲滅ヲ目的トスルモ經費等ノ關係上稍、徹底ヲ缺クガ如ク見エ

ル場合アルヲ諒セラレタキ旨答辯ガアッタノデアリマス、次ニ家禽ノ傳染病ニ聯關致シマシテ、傳染病ノ取締モ必要デアルガ、傳染病ヲ傳播スル家禽仲買人ノ取締ハ如何トノ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ、取締法ニ付テハ目下研究ヲ進メツ、アル旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ時局下ニ於テ兎ノ毛皮ハ軍需等ノ資材トシテ必要ナルニモ拘ラズ、兎ノ傳染病豫防等ニ付テ何等措置ヲ講ズル所ガナイノハ遺憾デアルト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ヨリ、兎ノ傳染病ニ對スル豫防研究ノ完成ト相俟ツテ適當ノ機會ニ考慮スル旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ最近豚「コレラ」増加ノ傾向ニ對シ、政府ノ注意ヲ促シタノニ付キマシテモ、政府ニ於テ一層注意ヲ怠ラナイト云フコトヲ答辯サレタノデアリマス、以上大體質問應答ノ主意デゴザイマスガ、次ニ討論ニ移リマシテ、本改正案ハ時局下ニ於テ適切ナルモノ

ト認ムルヲ以テ賛成スルモ、兎ノ傳染病豫防ニ付テ將來考慮アリタキ旨、及ビ手當金交付ニ當リマシテハ家畜ノ評價ヲ適正ニスベキ旨ノ希望ガアリマシテ、續イテ採決ニ入り全會一致ヲ以テ原案通り可決致シタ次第デアリマス、以上簡單デゴザイマスガ、大要御報告申上ゲマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○公爵一條實孝君 只今上程セラレマシタル軍用電氣通信法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ要地帶法中改正法律案特別委員會ニ併託ニ相成シタルモノデアリマシテ、審議ノ都合上此ノ法案ヲ先キニ議シタ次第デアリマス、委員會ハ去ル二月二十七日、三月一日、三日ノ三日日議アリマシテ、他ノ法案ト共ニ政府當局方ニ詳細ナル説明ヲ得マシテ、本案ニ付キマシテハ極メテ精細ナル説明ヲ得タノデアリマス、既ニ本會議ニ於キマシテ政府ノ大體ノ御説明ハアリマシタノデアリマスガ、マダ御手許ニモ速記録ガ渡ツテ居リマセヌカラ、聊カ冗長ニ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第三、軍用電氣通信法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長一條公爵

軍用電氣通信法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十五年三月二日

委員長 公爵一條 實孝

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

(公爵一條實孝君演壇ニ登ル)

○公爵一條實孝君 只今上程セラレマシタル軍用電氣通信法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ要地帶法中改正法律案特別委員會ニ併託ニ相成シタルモノデアリマシテ、審議ノ都合上此ノ法案ヲ先キニ議シタ次第デアリマス、委員會ハ去ル二月二十七日、三月一日、三日ノ三日日議アリマシテ、他ノ法案ト共ニ政府當局方ニ詳細ナル説明ヲ得マシテ、本案ニ付キマシテハ極メテ精細ナル説明ヲ得タノデアリマス、既ニ本會議ニ於キマシテ政府ノ大體ノ御説明ハアリマシタノデアリマスガ、マダ御手許ニモ速記録ガ渡ツテ居リマセヌカラ、聊カ冗長ニ

失スル嫌ヒガアルヤモ知レマセヌガ、少シク本改正案ノ内容ヲ申上ゲタイト思ヒマス、内容ハ今回ノ改正ハ、近來科學ノ進歩、工業ノ發達ニ伴ヒマシテ、電氣的設備、機器使用ノ範圍ガ、地域的ニモ量的ニモ著シク擴大シマシテ、從ヒマシテ是等カラ發散スル所ノ高周波ノ作用ニ依リマシテ、軍用電氣通信ノ實施ガ障礙ヲ蒙ルノ虞ガ大ナルニ至リタノデアリマス、然ルニ軍用電氣通信ノ任務ハ、平時ニ於キマシテモ誠ニ重大デアリマスルガ、殊ニ現今ニ於キマシテハ統帥中樞ト大陸作戰軍トノ連鎖トシテ直接作戰ニ參與ヲ致シテ居ル狀況デ、其ノ重要性ハ極メテ大ナルモノガアルノデアリマス、カルガ故ニ此ノ軍用電氣通信ノ絕對的重要性ニ鑑ミマシテ、其ノ通信機能ヲ確保セムガ爲ニハ、軍用電氣通信法中ニ必要ナル改正ヲ致ス必要ガアルノデアリマス、其ノ條項ハ、陸海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ及ボス障礙ヲ防止スル爲ニハ特別地域ヲ指定シ得ル規定、次ニ特別地域内ニ於テ陸海軍大臣ノ指定スル高周波電流發生設備ノ施設ヲ許可制トスル規定、次ニ特別地域内ニ於テ高周波電流發生機器ノ使用ヲ制限シ得ル規定、次ニ許可ヲ受ケズ、其ノ他條件制限ニ違反スル設備機器ノ除却其ノ他ノ措置ヲ命ジ得ル規定、次ニハ特別地域若シクハ設備ノ指定ノ際、從來存スル設備又ハ地域外ニアル設備ニシテ、指定設備ニ該當スルモノニ付、使用ノ制限、除却、變更其ノ他ノ措置ヲ命ジ得ル規定、次ニ設備施設者又ハ機器使用者ニ對スル報告ノ徵取、軍事官憲ノ立入検査、質問等ニ關スル規定ヲ新タニ定メマシテ、之ニ伴ヒ補償及罰則ニ付テ必要ナル改正ヲ致シ、又轉嫁罰ノ

規定ヲモ新タニ設ケタノデアリマス、委員會ニ於テハ幾多ノ重要ナル質問ガアリタノデアリマスルガ、其ノ中ノ二三ヲ御紹介申上ゲマス、一委員ヨリ、軍用電氣通信法第三條ニハ「軍用電氣通信ハ要塞、軍港其ノ他軍事上特ニ必要ナル場所ニ之ヲ施設スル」トアルガ、改正案ノ第七條ノ二ニ規定スル特別地域ハ、要塞軍港等ノ軍用電氣通信ニ付テモ指定スルノカ、ト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、只今ノ所陸海軍共各、二箇所ダケニ付テ特別地域ヲ指定スル積リデアルトノ御答ガアリマシタ、次ニ改正案ノ第七條ノ二ニ定ムル所ノ「二メートルノ距離」ト云フモノハ如何ナル根據ニ依ッテ出來テ居ルノカト云フコトノ質問ニ對シマシテハ、諸種ノ技術的調査ノ結果、通常大多數ノ電氣的設備機器ニ對シテ、此ノ程度ナラバ安心ガ出來ルト云フ程度ナリト信ジテ、二千「メートル」ノ距離以內ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトニ定メタノデアルトノ答辯ガアリマシタ、又補償ノ規定ニ付キマシテモ、補償ノ決定ハ補償委員會ト云フガ如キモノデ決定スル積リハナイカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、現行法通り陸海軍大臣ニ於テ決定スルコトヲ勅令デ定ムル積リデア、特別地域ハ限定セラレテ居リ、其ノ中ニ於テノ出來事デアアルノデ、補償委員會ト云フ如キモノデ決定スルヨリモ、陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ決定スルノガ、適切ニ行ハレ又時ノ點カラ申シマシテモ手早く出來ルト思フ、損害ヲ受ケル者ニ取ッテモ利益ト信ズルト云フ御答ガアッタノデアリマス、又改正案ノ十九條、二十條、即チ轉嫁罰ノ規定ニ付テハ、何故ニ斯カル規定ヲ新タニ加ヘルノ必要ガアルノカ、「自己ノ指揮ニ出

デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ」トハ酷ニ失セザルヤト云フ質問ガアリマシタニ對シマシテハ、改正案ノ適用ヲ受クル電氣設備ノ施設者ハ、主トシテ會社等ノ法人又ハ工場、事業場ノ事業主デアアルノデ、或ハ罪ヲ從業者ニ嫁シテ免カル、者ヲ生ズルノ虞ガナシトモ言ヘナイ、斯クテハ法ノ屬行ヲ期シ得ナイノデ新タニ轉嫁罰ノ規定ヲ定メタ、又特別地域及ビ設備ノ指定ハ、告示、省令等デ公示スルノデアルカラ、除却等ノ命令ハ法人ノ業務執行者又ハ事業主ニ達セラルルノデアッテ、之ヲ知ラナイト云フ如キハ殆ドアリ得スト考ヘラレル、又法人ノ業務執行者又ハ事業主ハ業務ニ對シテハ從業者ヲ監督スルノ責任ガアルコトハ勿論デアアルノデ、酷ニ失スルトハ思ハナイ、斯様ナ御答ガアッタノデアリマス、其ノ他ノ幾多ノ質問ニ付キマシテハ、是カラ御手許ニ廻リマスト思ヒマスル連記録ニ依ッテ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、斯クシテ質問ヲ終リマシテ討論ニ入り、一委員ヨリ、生産力ノ擴充、國力ノ増進ニ絶大ナル貢獻ヲ爲シツ、アル電氣的設備、機器ノ發展途上ニアル今日デアルカラ、此ノ設備、機器ノ普及及ビ發達ヲ阻碍セザルヤウニ、許可、補償、轉嫁罰ノ運用等ニ付テハ、政府ニ於テ深甚ノ注意ヲ拂ハレタイト云フ希望ガアリ、本案ニ賛意ヲ表セラレタノデアリマス、又各委員カラモ、本案ハ時節柄軍用電氣通信ノ確保上緊急缺クベカラザル法案ト認ムルガ故ニ、政府ニ於テ十分運用ニ注意セラレタイト云フコトヲ希望セラレ、本案ニ賛意ヲ表セラレタノデアリマス、斯クテ採決ニ入りマシテ、採決ノ結果、全會一致ヲ以テ本案可缺ト相成ツタル次第ゴザイマス、以上

報告ヲ終ヘマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵植村家治君 贊成
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ト認メマス
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵植村家治君 贊成
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ト認メマス
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決

議通り御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第四、

牧野法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長小村侯爵

牧野法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十五年三月一日

委員長 侯爵小村 捷治

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔侯爵小村捷治君演壇ニ登ル〕

○侯爵小村捷治君 牧野法中改正法律案ノ提案理由ハ、二月二十四日既ニ此ノ議場ニ於キマシテ農林大臣カラ御説明ガゴザイマシタノデ、重ネテ申上ゲル必要モナイヤウデゴザイマスルガ、又特別委員トシテ感じマシタ所ヲ交ヘマシテ聊カ申添ヘタイト存ジマス、此ノ法律ハ、勿論申ス迄モナク馬ヲ對象ト致シマシテ、昭和六年以來施行セラレテ居リマスル現行法ハ、各地方ニ牧野組合ナルモノヲ作ラセ、政府ガ之ノ指導監督ニ當テハ居リマスルモノノ、殊ニ日支事變ノ時局以來、御承知ノ通り夥シキ數ニ上ル馬匹ガ徵發セラレマシテ、斯クテハ從來我が國ノ執リ來リマシタル一定數ノ馬匹ヲ保持スルト云フ政策ニモ齟齬ヲ來シマスルノデ、此ノ際之ガ補充ヲ爲シ且改良ヲナシ、常ニ大陸ニ馬ヲ出シマシテモ尙且一定ノ國家所要ノ馬匹頭數ヲ保持シヨウト云フ所ガ今度ノ改正案ノ眼目デゴザイマシテ、從ツテ

頗ル積極化サレテ參リマシタ、然ラバ此ノ我が國ガ目下ノ所求メテ居リマスル有能馬ト云フモノハドウ云フモノカト申シマス、手足、イヤ四ツ足ガ強ク、頑強ニ筋肉ガ發達シテ居リ、軀ガ厚ミガアッテ背ハ餘リ高クナイノガ宜シイ、即チ俗ニ申スズングリムムクリデ、ガツシリシタ馬、サウシテ其ノ性質ハ頑強イノヲ可ト致シマセヌ、成ルベク溫順ニシテ、謂ハバ人間デ申セバ膽汁質ト云フヤウナ馬ヲ要求シテ居ルヤウデゴザイマス、斯カル有能馬ナルモノヲ多ク育成シマス爲ニハ、今日迄ノヤウニ農家ニ預ケテ置イテ飼養サセルヤウナ姑息ナコトデハ、到底其ノ目的ヲ達セラレマセヌノデ、茲ニ先ヅ第一トシマシテ牧野特定地ナルモノヲ設ケルコトニナリマシタノデゴザイマス、之ニ用ヒマスル土地ニハ、北海道ヲ主ト致シマシテ、御料地或ハ國有地等ノ民間デ拂下ヲ受ケマシタモノガ餘リ利用サレテ居ナイモノモゴザイマスルノデ、斯様ナ所ヲ出來ルダケ牧野ノ特定地ト致シテ參ルヤウニ承リマシタ、ソレカラ從來ノ牧野組合ニ對シマシテモ、十分ナル國家ガ強制力ヲ以テ之ガ機能ヲ強化シ、又其ノ監督ヲモ嚴重ニ致シマシテ、尙且ソレニシテ及バナイヤウナ場合ニハ、國家ガ自ら牧野ヲ經營シテ行ク、斯様ナル手段ヲ以テ所期ノ目的ヲ達シヨウトスルノデゴザイマス、擬委員會ハ、二月二十八日午前、午後並ニ三月一日午後ノ三回ニ互リマシテ慎重ナル審議ヲ續ケマシタ、今其ノ質問ノ主ナルモノニ二三ヲ申上ゲマス、此ノ牧野法ノ施行ニ先ダッテ馬政研究ノ綜合機關ヲ設立スル方ガ本當ノ順序デハナイカ、申サバ提燈持チガ後カラ行クト云フヤウナ嫌ヒガアリハセヌカト云フヤウナ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シテハ、此ノ研究機關ニ付テハ當局モ既ニ成算ガアリ、近ク實現ヲ見ルノダカラ其ノ心配ハナイ、又其ノ間陸軍當局ニ於テモ軍用馬其ノ他ニ付テ相當ノ研究ヲ重ネテ居リ、敢テ無駄ナ努力ニ終ルヤウナコトハナイト云フ御答辯ガゴザイマシタ、ソレカラ又、狹小ナル我が本土ニ於キマシテ貴重ナ地面ヲ割イテ廣イ牧野ヲ作シテ行クト云フコトヨリモ、寧ロ大陸ニ於テ馬ヲ養成シタラドウダト云フ質疑モゴザイマシタ、之ニ對シマシテハ、ソレ等ハ望ム所ダケレドモ、目今ノ情勢ヲ以テシテハ、其ノ技術、知識並ニ環境上、大陸於テ之ヲ行フハ未ダ尙早ノ嫌ヒガアリマシテ、矢張り内地ニ於キマシテ十分前述致シマシタル如キ有能馬ヲ養成シ、之ヲ一人前否一匹前ノ馬ト致シマシテ大陸ヘ送ルコトノ方ガ、遙カニ目下ノ目的ニハ適フト云フ答辯ガゴザイマシタ、其ノ他ニハ、例ヘバ此ノ牧野ニ特定地ノ指定ヲ受ケマシタル場合ニ、隨分其ノ土地ノ所有者其ノ他カラ紛議ガ起リ得ル可能性ガアリハセヌカト云フヤウナコトニ對シマシテハ、又ソレハ各地ノソレレノ委員會等ヲ設ケテ公平ヲ期シテ行クト云フ御答辯ガゴザイマシタ、又此ノ間、委員外ノ一議員ト當局トノ間ニ極メテ熱心ナル質疑應答ガ行ハレマシタコトヲ併セデ申上ゲテ置キマス、斯クテ討論ニ入リマシテ、本案ノ趣旨ニハ皆異議ハナイケレドモ、之ガ運用ニ當ツテ農業、林業等ト衝突ノ起ラヌヤウ、運用ノ圓滑ヲ期セラレタイト云フ希望ヲ含メテ各委員ヨリ贊成意見ノ陳述ガアリ、斯クシテ採決ニ入リマシテ、全會一致本案ヲ可決スベキモノナリト決定致シマシタ、以上ヲ以テ簡單ナガラ御報告ト

致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部第二讀會ノ決議

通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第五、輸出毛織物取締法案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長公爵島津忠重君

輸出毛織物取締法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十五年三月一日

委員長公爵島津忠重

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔公爵島津忠重君演壇ニ登ル〕

○公爵島津忠重君 只今日程ニ上リマシタ輸出毛織物取締法案特別委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告上ゲマス、本法案ハ去ル二月二十四日委員會付託トナリ、委員會ニ於キマシテハ同二十六日正副委員長ノ互選ヲ行ヒ、翌二十七日ヨリ三月一日迄ニ三回ノ委員會ヲ開キ、先ヅ政府ノ御説明ヲ承リ、質疑ニ入リマシタ、本法案ノ内容ニ付キマシテハ、本會議ニ於ケル商工大臣ノ提案理由ノ御説明中ニモアリマシタコトデモアリマスノデ、詳細ノコトハ省略致シマスガ、極メテ簡單ニ申述ベマスレバ、本邦毛織物ハ近年異常ナル輸出ノ増進ヲ示シ、輸出品中將來性ニ富ム商品ナルモ、大部分中小工業者ノ生産ニ係リ、動モスレバ粗悪品ガ輸出セラレ海外ヨリノ苦情モ多イ、仍テ政府ハ國營ノ検査所ニテ嚴密ニ検査ヲ實施シ、

〔議長伯爵松平賴壽君議長席ニ著ク〕

輸出ノ取締ヲ行ヒ、粗悪品ノ輸出ヲ防止シ、

海外市場ニ於ケル聲價ヲ維持シ、品質ノ改善向上竝ニ製品ノ高級化ヲ促シ、輸出ノ振興ヲ圖リ、輸出貿易ノ健全ナル發展ニ資セムトスルモノデアルト云フデアリマス、

次ニ委員會ニ於ケル委員ト政府當局トノ間ニ於ケル質疑應答中ノ、主ナルモノ若干ヲ申述ベマスレバ、從來ノ検査ト本法案ノ國營ノ検査ト、二重ニナルノデハナイカトノ問ニ對シ、從來愛知縣竝ニ大阪府ニ於テ、

縣外、府外移出品ニ付テハ總テノ毛織物ニ關シテハ二重ノ検査ハシナイト云フ御答辯ガアリマシタ、又國營検査ノ費用ニ關スル問

ニ對シ、昭和十五年度ノ豫算ハ、十月カラノ分トシテ十八萬餘圓、平常ノ年度トシテハ二十八萬五千圓トナル、又検査所ノ設備等ニ對シテハ、民間ヨリノ寄附、建物等ニ於テ五十萬圓、其ノ他ノ設備ニ於テ十餘萬圓ト考ヘテ居ルトノ御答辯ガアリマシタ、

又國營ニナレバ從來ノ如キ弊害ハ絕對ニ防止セラレルト云フ問ニ對シ、輸出關係ノ業者等ニ於テハ、夙ニ國營ニ依ツテ責任アル且統一アル検査ヲシテ欲シト云フ意見ノ具申モアルヤウナ次第デ、國營トナル以上、嚴正ニ統一アル精密ナ検査ヲ爲シ、

聲價ヲ墜スヤウナコトナキヤウ考ヘテ居ル云々ノ御答辯ガアリマシタ、又國營ノ検査ガ嚴重ニナルト、小工業者ノ生産ガ減ジハシナイカ、輸出毛織物業ハ農村ノ副業ニハ最モ良イ工業ダカラ、原料ヲ潤澤ニ供給スルト云フ方策ニ付テハ御考ニナッテ居ルカ

トノ問ニ對シ、原料ノ供給ヲ圓滑ニシテ確保シテヤルト云フコトハ最モ重要デアラウト考ヘル、又検査取締ノミナラズ、中小工

業者ニ對シテハ深切ニ指導シテ行クコトヲ眼目トシタイトノ御答辯ガアリマシタ、又不合格品ト云ツテモ程度ノ問題ナラム、検査ノ結果二等品ニナツテモ、三等品ノ商標ヲ附ケテ輸出シ得ルノデハナイカトノ問ニ對シ、大體最低ノ一ツノ規準ヲ設ケテ不合格トスルノデ、合格品ニモ格付ヲスルノデアルシ、二等品モ其ノ向ク所ヘハ行ク

ノデアアル、實狀ニ即シテ取引ガ行ハレルコトヲ期待シテ居ルトノ御答辯デアリマシタ、右ノ外、數字上ノモノ、其ノ他多數ノ質疑應答ガアリマシタケレドモ、煩ヲ避ケル爲省略致シタイト存ジマスカラ、何卒速記録ニ就イテ詳細御覽ヲ願ヒマス、斯クテ討論ヲ省略致シマシテ直チニ採決ノ結果、全會一致ヲ以テ原案通り可決スベキモノナリト議決致シタ次第デゴザイマス、右御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通り

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

泉貴族院多額納稅者議員互選人多賀芳延ヨリ被告新潟縣選出貴族院多額納稅者議員長谷川越夫ニ對シ其ノ當選ノ無効ヲ請求シタルモノトス

原告請求ノ要旨

昭和十四年九月十日施行セラレタル貴族院多額納稅者議員ノ選舉ニ於テ新潟縣ヨリ立候補シタル互選資格者飯塚知信ハ六十一票長谷川越夫ハ五十九票同高橋友二郎ハ五十六票ノ投票ヲ得タル結果同縣選舉長新潟縣知事ハ該得票ノ多數ニ因リ飯塚知信及長谷川越夫ノ二名ヲ當選人ト決定シタリ然レトモ右當選者ト決定セラレタル長谷川越夫ハ貴族院令第六條ニ依ル貴族院多額納稅者議員互選規則第一條所定ノ住居ノ要件ヲ缺キ互選資格ヲ有セザルヲ以テ其ノ當選ハ無効トスヘキモノナルニ之ヲ當選者ト決定シタルハ不法ナリ抑、貴族院多額納稅者議員互選規則第一條ニハ貴族院令第六條ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ互選人名簿調製ノ期日マテ引續キ一年以上北海道又ハ各府縣ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スルモノタルヘシト規定シ互選人タル資格享有ニ付納稅及期限ノ外其ノ府縣ニ於テ本籍ヲ定メ住居スルコトヲ以テ必須要件トス而シテ同條ニ住居シトアルハ現實ノ住居ヲ意味スルハ勿論ニシテ現實ノ住居トハ本籍地ニ常ニ居住シ生活ヲ營ムヲ謂フ故ニ本籍地ニ家屋ヲ有スルモ常ニ其ノ場所ニ居住セス且ツ之ヲ生活ノ本據トセザルニ於テハ住居ト看做ササルコト同法條ノ文意上一點疑ヲ容ルルノ餘地ナシ民法第二十一條ニ各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其ノ住所トスト規

定スルモ亦此ノ意義ニ外ナラス

然ルニ被告ハ大正二年七月東京帝國大學法科大學政治學科ヲ卒業シ次テ文官高等試驗ニ合格シ貴族院試補ヲ經テ官界生活ニ入り昭和十二年十月內閣統計局長ヲ依願免官セラレタル後同年十二月錦鷄間祇候ヲ仰付ラルル迄實ニ二十有五年常ニ東京ニ在住シ殊ニ大正十七年十月東京市牛込區東五軒町四十八番地ニ寄留ノ届出ヲ爲シ東京市ヲ以テ常住生活ノ地ト定メテ今日ニ至ル其ノ間妻子ト共ニ生活シ三男二女ノ教育ヲ爲シ未タ會テ新潟縣ニ居住生活シタル事實ナク從テ被告ハ新潟縣ニ於テ其ノ本籍地ノ村會議員ハ勿論縣會議員及衆議院議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有シタルノ事實ナキニ反シ東京市ニ於テハ府市會議員及衆議院議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有スルモノニシテ被告カ本籍地ニ住居ナキコトヲ疑フノ餘地ナシ被告ノ出生地新潟縣三島郡塚山村大字塚野山ニハ父祖ノ舊家宅ヲ有シ傭人ヲ置キ土地ヲ所有シ納稅ヲ爲シ居ルハ事實ナルモ土地ノ管理收入納稅等ハ便宜ノ處置ニシテ其ノ場所ニ本人ハ勿論一人ノ家族スラ生活シ居ラサルヲ以テ之ヲ住居ト謂フヲ得ス被告ハ立候補ニ際シ其ノ資格ニ疑ヲ抱キタルモノノ如ク同人ノ推薦者等ハ其ノ推薦狀ニ於テ多額納稅者議員互選人ノ資格要件タル住居ト衆議院議員選舉人ノ要件タル住居トハ其ノ意義ヲ異ニス即チ內務省ノ解釋ニ依レハ前者ニアリテハ住所タルト居所タルトヲ問ハス苟モ一定セル住居ノ事實アルニ於テハ旅行者ト一時ノ滞在者ヲ除キ總テ住居ヲ有シ從テ同一府

縣内ニ二個以上ノ住居ヲ有スル者アルヲ認メ又貴族院ノ判決ニ依レハ本籍地ニ住

宅ヲ有シ地租所得稅縣稅戶數割村稅戶數割附加稅等ヲ納メ使用人ヲ用ヒテ農業ヲ營ミ祖先ノ祭祀隣保ノ社交其ノ他諸般ノ家政ヲ處理スルニ於テハ本籍地ニ住居スルモノトス云々ト辯明的意見ヲ附シテ有權者ニ配布セリ右內務省ノ解釋カ果シテ事實ナリヤ否ヤハ不明ナルモ法律上ノ住居ハ一アリテニナク多額納稅者議員互選人規則ノ住居ト衆議院議員選舉法府縣市町村制ノ住居トハ其ノ意義ヲ異ニスト謂フカ如キハ何人モ首肯シ得サル所ナリ又前示貴族院ノ判決ニ所謂住宅トハ如何ナル內容事實ニ根據シテノ判斷ナルカ明確ナラサルモノノ常ニ住居セサル住宅ヲ意味シタルモノニ非サルヘシ既ニ住宅ト謂ヘハ居住ノ事實ヲ伴ハサルヘカラサルヲ以テ原告ノ住居ノ意義ト一致ス若然ラステ偶、來リテ祖先ノ祭祀ヲ營ミ隣人ト面語スルカ如キ家宅ヲ法律上ノ住居ナリト解シタリトセハ誤レル判斷ニシテ斯ル先例ハ之ヲ是正スヘキモノト信ス塚山村村長長谷川潤二郎ハ被告ノ分家ニシテ推薦人ノ一人ナリ而シテ新潟縣知事ニ對シ被告ハ東京ニ居住シ居ルモ時々歸省シ祖先ノ祭祀ヲ營ミ隣保ノ社交ヲ爲スト謂フカ如キコトヲ報告シ被告ヲ互選人資格者タラシムルコトニ努力シタル事實アリ然レトモ斯ノ如キ事ハ法律上ノ住居又ハ住所ト看做スヘキニ非ス若斯ル事實ニ根據シ住居ノ解釋ヲ爲シ法律上ノ資格ヲ享有セシメンカ二重ノ權利ヲ有スルニ至リ法ノ精神ヲ破壞スルモノナリ被告カ

前述ノ如ク塚山村ニ於テ村會議員縣會議

員衆議院議員ノ選舉權被選舉權ヲ有セサルハ全ク同村ニ住居セサル結果ニシテ歷代村長カ資格享有者ト爲サリシハ被告カ同村ニ住居セサルコトヲ確認シタル證左ナリ上記ノ理由ニ因リ被告ハ新潟縣ニ於ケル多額納稅者議員互選人タル資格ナキヲ以テ其ノ當選ハ無効ナリト謂フニ在リ被告答辯ノ要旨被告ハ新潟縣三島郡塚山村大字塚野山十六番戶ニ本籍ヲ定メ先祖以來十數代邸宅ヲ所有シ同所ヲ生活ノ本據トシテ國稅地租所得稅縣稅所得稅附加稅地租附加稅家屋稅村稅附加稅特別稅戶數割家屋稅附加稅等ノ納稅ヲ爲シ永年相當數ノ男女召使人ヲ使用シ先祖以來農ヲ本業トシ祖先ノ祭祀隣保ノ社交其ノ他諸般ノ家政ヲ處理シ事實上同所ニ住居ヲ有スルモノナリ原告カ被告ノ住居ヲ否定スル主張ハ何等事實ニ根據ヲ有セサル見解ナリ貴族院多額納稅者議員互選規則第一條ニ所謂住居トハ各人生活ノ本據ヲ指稱シ永住ノ意思ヲ以テ一定ノ場所ニ居住スル事實ヲ謂フ被告所有ノ前記塚山村所在ノ邸宅中屋數ハ三百年ヲ經、住屋ハ二百餘年ヲ經タルモノニシテ祖先以來永住ノ地トシテ今日ニ及フ今此ノ邸宅ト東京市所在ノ邸宅トヲ比較スルトキハ其ノ構ヘニ於テ東京ノ邸宅ハ假ノ寓居タルコト何人モ首肯スヘシ新潟縣ノ邸宅ハ單ニ原告主張ノ如ク土地ノ管理收入納稅等ノ處理ヲ目的トスルニ非スシテ被告ハ永住ノ意思ヲ以テ此ノ場所ヲ生活ノ本據トシ納稅ヲ爲シ永年相

當數ノ召使人ヲ使用シテ農業ヲ營ミ其ノ他諸般ノ家政ヲ處理シ事實上同所ニ住居ヲ有スルモノナリ

原告ハ被告ノ在官及家族ノ就學等ノ事實ヲ舉ゲテ被告カ東京市ニ住居シ本籍地ニハ住居ヲ有セスト主張スルハ洵ニ皮相ノ見解ナリ被告ハ大正四年九月東京市牛込區東五軒町四十八番地ニ現在ノ邸宅ヲ買入レ同年十二月貴族院試補ヲ命セラレタル以後同所ヲ居所ト定メ昭和十二年十月退官スルマテ官衙奉職ノ都合上此ノ場所ニ存在シタルニ過キス原告ハ被告及其ノ家族カ東京市ニ住居シ生活シ未タ曾テ新潟縣ニ居住生活シタル事實ナシト稱シ東京市ヲ以テ被告ノ常住地ナリト主張スルモ被告ハ弱年ニシテ父母ヲ喪ヒ僅カニ祖母ト二人ニテ生活シ明治四十一年十二月祖母死去後ハ大正五年四月妻帯スルマテ單獨戸主トシテ生活セリ其ノ後子女ヲ舉ケタルモ官衙奉職ノ都合上子女ヲ東京市及其ノ附近ノ學校ニ入學セシメテ今日ニ及ヒタル次第ニシテ被告ハ勿論家族モ本籍地ノミニ在住スルコト困難ナルヲ事實トス然レトモ事情ノ許ス限リ本籍地ニ住居スル方針ヲトリ毎年學校休暇ノ季節等ニハ家族モ亦本籍地ニ歸郷生活スルヲ常トセリ殊ニ被告ハ昭和十二年十月退官後ニアリテハ本籍地ノ邸宅ニ赴キ家政其ノ他諸般ノ要務ニ執掌セリ但シ退官後モ一年ヲ通シテ比較的多ク東京ニ在住スルハ主トシテ子女ノ教育監督ノ必要ニ因ルモノナリ常住地ナルモノハ決シテ一年ヲ通スル生活日數ノ多少ニ依リ決スヘキモノニ非スシテ各人ノ生活ノ本據ヲ基準トシテ之ヲ決定スヘキモノトス

被告ハ大正七年十月東京市ニ住所寄留ノ届出ヲ爲シタルハ事實ナルモノヲ以テ直ニ住所決定ノ標準ト爲スヘキニ非ス即チ現實ニ其ノ場所ヲ生活ノ本據ト爲シタル事實ナキニ於テハ所謂法律上ノ住居ト看做スヘキモノニ非ス被告ハ大正四年以來官吏タリシヲ以テ東京市又ハ其ノ附近ニ居所ヲ有セサルヘカラサリシモノニシテ右住所寄留ノ事實ヲ以テ東京市ヲ常住地ト定メタリト觀ルハ不當ナリ

又原告ハ被告ノ新潟縣ニ於ケル村會縣會衆議院議員選舉權ノ有爲ニ付論議スルモ該選舉人名簿ニ有權者トシテ登載セラレタルト否トヲ問ハス其ノ權利ノ主張或ハ權利ノ行使ハ被告ノ自由ニ屬シ當時在官ノ關係モアリテ事實上郷里ニ於テ此等權利ヲ行使スルコトハ殆ント不可能ノ事情モアリタレハ之ヲ放任シテ顧ミサリシニ過キス

原告ハ被告ニ對スル推薦狀中ノ住居ニ對スル注意書ヲ指摘シ內務省ノ解釋及貴族院ノ先例ヲ非難シ併セテ被告カ其ノ資格ニ付疑義ヲ抱キタルモノノ如ク解スルモ內務省ノ解釋及貴族院ノ先例ニ對スル非難ニ付テハ茲ニ辯明ノ要ヲ認メス被告ハ未タ曾テ自己ノ資格ニ付疑義ヲ抱キタルコトナシ又推薦者ニ於テ推薦狀ニ之ヲ掲載シタルハ被告ノ資格ニ付疑義ヲ抱キタルニ非スシテ互選ノ資格要件タル住居ニ關シ內務省ノ解釋及貴族院ノ先例ヲ示シ以テ一般ノ選舉人ヲシテ被告ノ有資格者ナルコトヲ知ラシメ被告ヲ無資格者ナルカ如ク宣傳シ選舉妨害ヲ企ツル者ノ現ハルコトヲ虞レ之ヲ防遏センカ爲ナリシト思料ス

以上ノ事情ニ因リ被告ハ在官中既ニ昭和七年ニ於ケル前回ノ貴族院多額納稅者議員選舉及大正十四年ニ於ケル前回ノ同選舉ニ於テ何レモ互選資格ヲ有シ殊ニ前回ノ選舉ニ於テハ其ノ權利ヲ行使シタル被告ハ今日既ニ退官シテ官衙所在地ニ在住スヘキ何等ノ拘束ナキ今同ノ選舉ニ於テ當局者カ被告ヲ以テ本籍地ニ於ケル有資格者ナリト決定シタルハ洵ニ當然ナリ上記ノ理由ニ因リ被告ノ當選ハ無効ニアラスト謂フニ在リ

尚被告ハ上申書ヲ提出シ本件訴狀ノ原告署名ハ本人自身ノ署名ニ非サルヲ以テ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則第三條規定ノ必須要件タル原告本人ノ署名ヲ缺クモノナルニ因リ適當ナル措置ヲ望ムト主張セリ

議決ノ理由
一 原告ノ訴狀ヲ受理スルニ先チ其ノ署名ノ自筆ナルコトヲ證明セシメタルニ對シ原告ハ訴狀全文ヲ手記シタル旨ノ申立書ヲ提出セリ依テ審査ヲ遂ケ訴狀ノ要件ニ缺クル所ナキモノトシ訴狀ヲ受理スルコトニ決定セリ而シテ被告ハ既ニ答辯書ヲ差出シタル後更ニ訴狀ノ署名カ原告ノ自筆ニ非サルコトヲ抗辯シ適當ナル措置ヲ求ムル旨ノ上申書ヲ提出シタルモ右決定ヲ覆スニ足ルモノナシト認メタリ
一 本件ノ爭點ハ貴族院多額納稅者議員互選規則第一條第一項ニ從ヒ被告カ新潟縣ニ於テ住居スル者ト認ムヘキヤ否ニ在リ按スルニ法制上各人ノ住居ハ其ノ生活關係ニ於テ常住ノ意思ヲ以テ一定ノ場所ニ現實ニ居住スルコトニ因リ

成立スルモノニシテ社會事情ノ複雜セル今日ニ於テハ居住ノ日時ノ長短ノ如キハ必スシモ住居ノ存否ヲ決スル條件タラス從テ事實上住居ハ一箇所ニ限ラサルヘキモ規則第一條第一項ニハ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシト規定セルヲ以テ此ノ場合ノ住居カ本籍地ト社會上經濟上特ニ密接ナル關係アルヘキモノナルコトハ言ヲ待タス而シテ本件被告カ本籍地ニ邸宅ヲ有シ各種ノ納稅ヲ爲シ土地ヲ所有シ傭人ヲ置キテ農業ヲ營ミ家政ノ處理ヲ繼續シ來レ乙第一號證、乙第二號證塚山村村長長谷川潤二郎ノ證明書ニ依リ被告ノ新潟縣ニ於ケル住居ハ前記ノ趣旨ニ適合セルモノト認ムルヲ以テ原告ノ申立ハ理由ナキモノトス

右ノ理由ニ依リ本件ハ左ノ如ク判決スヘキモノナリト議決ス

判決
被告新潟縣選出貴族院多額納稅者議員長谷川尠夫ノ當選ハ無効ニアラス

(織田萬君演壇ニ登ル)

○織田萬君 長谷川尠夫君ノ選舉爭訟ニ關スル資格審査委員會ノ經過並ニ結果ノ御報告申上ゲマス、資格審査ハ、貴族院ニ與ヘラレテアル唯一ノ裁判權ノ行使ニ據ルハナクアレマシテ、慎重ニ又公平無私ニ行ハレナケレバナラヌ上ニ、動モスレバ手續ニ關シテ先決問題ヲ生ズルコトモアリマス、デ、成ルベク速カニ著手スベキ事情モアッタノデアリマスルカラ、休會中ニモ拘ラズ二回委員會ヲ

開キ、前後九回ニ互ニ開會致シマシタ、其ノ中二回ハ、廣ク參考ノ資料ヲ得タイ爲、互選事務ノ取扱方々、爭訟ノ目的トナツテ居ル事項ニ付テノ法律上ノ解釋等ニ關シ、内務、司法兩當局ノ説明ヲ聽取シタル上ニ、質疑應答ヲ重ネタリデアリマス、又審査ガ實質上ノ裁判事務ナルコトヲ考ヘ、且先例ニモ從ヒ、委員會ノ議事ハ一切秘密ノモノトスルコトニ定メタリデアリマス、尙念ノ爲申上デマスルガ、本院ノ判決トシテハ、今回ノ事件ト類似ノ内容ヲ有スルモノニ付テ爲サレタ先例ガ一ツアリマスルガ、議員其ノ人ノ互選資格ノ欠缺ヲ理由トシテ提起サレマシタ本當ノ意味ノ當選訴訟ハ今回ガ初メデアリマスルカラ、此ノ點カラ致シマシテモ、委員會ハ飽ク迄慎重ノ態度ヲ執ルコトニシタリデアリマス、右様ノ經過ニ依ッテ得タル結果、全會一致ノ意見トシテ出來上ツタ議決デアリマスルガ、此ノ議決ハ、先決問題ニ對スル決定ト、本案ニ關スル判決トノ二ツニ分レテアリマシテ、ソレガ委員會ノ報告トシテ各位ノ御手許ニ其ノ印刷サレタモノガ配付サレデアリマスルノデ、大體御承知デアラウト存ジマスルカラ、成ルベク重複ヲ避ケテ、要點ニ付テノミ補足ノ意味ヲ以テ少シク説明ヲ加ヘタイト思ヒマス、先決問題ハ、訴狀ノ有效條件ニ關スルモノデアッテ、即チ訴狀ノ署名ガ原告ノ自筆ナリヤ否ヤノ問題デアッタノデアリマス、貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則第三條ニ依リマスレバ、訴狀ニハ「原告自ラ署名スヘシ」トアリマシテ、自署ト申シマスレバ原告ノ肉筆デナケレバナラヌ譯デアリマスルガ、訴狀ノ文面モ署名モ皆「カーボン」紙ヲ用ヒテ書カレデアリマシテ、署名ガ果

シテ自署ナリヤ否ヤヲ知ルニ由ナカッタノデアリマスルカラ、原告ニ、適當ノ方法ヲ以テ自署ナルコトヲ證明スベキ旨ヲ通告致シタノデアリマス、原告ハ之ニ對シテ、自分デ訴狀ノ全文ヲ書イタノデアルカラ、他ニ證明ノ方法ナキ旨ヲ答申シテ參リマシタ、其ノ答申書ハ全部原告ノ肉筆ヲ以テ書カレデアリマシタ、仍チ訴狀ノ署名ト答申書ト署名トヲ對照シテ、同一ノ筆蹟デアルコトガ確カメラレタノデアリマス、而シテ訴狀ヲ認メル爲用ヒラレタ「カーボン」紙ハ、畢竟墨汁又ハ「インク」ト同様ノ效用ヲ爲シタモノデアッテ、原告ノ筆蹟ガ「カーボン」紙ヲ通シテ紙面ニ現レタモノデアアルト致シマスレバ、肉筆ト同ジデアルト看做シテモ妨ガナク、少クとも印刷デナイト云フコトハ明カデアリマス、御承知ノ通り委員會ノ審査ハ專ラ書面審査ニ依リ、唯文書ノ上ニ現レタルモノニ付テ審査スルノ外ナク、本人ノ訊問、證人又ハ鑑定人ノ召喚ト云フガ如キ、口頭審理ノ手續ハ一切許サレテ居ナイノデアリマスルカラ、要スルニ各委員會ハ職權ノ範圍内ニ於テ法律上、事實上爲シ得ルダケノ方法ヲ盡シテ、原告ノ自署デアルト云フコトヲ認メタ次第デアリマス、且原告ノ自署ヲ以テ訴狀ノ有效條件トサレデアリマスルノハ、元來訴狀ガ原告自身ノ提出ニ係ルモノデアルト證明スル爲ノ形式的條件タルニ止リ、判決規則ノ精神トシテハ、原告ノ訴權ニ重キヲ置クベキデアリマシテ、徒ニ形式ニ拘泥シテ訴權ヲ喪失セシムルヤウナコトガアツテハナラヌノデアリマスルカラ、其ノ點ヲモ考量ヲ致シマシテ、訴狀ヲ受理スルコトニ決定シ、成規ニ從ヒ副本ヲ被告ニ送付シテ答辯書ヲ差

出サシメ、然ル後ニ漸ク本案ノ審議ニ入ルコトトナツタノデアリマス、然ルニ被告ハ、本案ノ審議中、突然上申書ヲ差出シテ、訴狀ノ全文ガ原告ノ自筆デナイトコトヲ辯明シ、適當ノ措置ヲ望ム旨ヲ申立テ、來タノデアリマス、訴狀ノ全文ガ自筆ニ非ズト申シマスレバ、一切ガ他人ノ代筆デアルト云フ譯デアリマスルガ、要スルニ斯カル申立ハ、訴訟法上ノ所謂妨訴抗辯ニ屬スルモノデアッテ、其ノ性質上、答辯書ヲ差出サザル中ニ爲サレナケレバナラヌモノデアリマス、サレバ嚴格ニ言ヘバ、一旦答辯書ヲ差出シタ以上ハ、妨訴抗辯權ヲ拋棄シタモノト見ルベシトノ議論モ立チ得ルカモ知レマセスガ、判決規則ニハ妨訴抗辯ト云ッタヤウナモノニ付テハ何等規定スル所ガアリマセヌカラ、結局委員會ノ自由裁量ニ依ッテ其ノ取扱方ヲ定ムルノ外ハナイト考ヘマシテ、委員會ハ此ノ申出ヲ受理審査シタノデアリマス、然ルニ只今申述ベマシタ通り、委員會ハ職權ノ範圍内ニ於テ、法律上、事實上、執リ得ル方法ヲ盡シテ訴狀ノ有效條件ニ缺クル所ナシト決定シタノデアリマシテ、ソレガ適法ノ決定デアルト云フコトハ間違ナイノデアリマスルカラ、被告ノ申出ダケデハ決定ヲ覆スニ足ル理由ヲ見出スコトハ出來ナカッタノミナラズ、申出ガ眞實デアルト云フコトヲ確認シマスルニハ、口頭審理ノ手續ヲ用フル外ハナイトシマスレバ、要スルニ被告ハ、委員會ニ對シテ、法律上ノ不能ヲ請求シタコトニモナル譯デアリマスルカラ、此ノ妨訴抗辯ニ屬スル被告ノ申立ハ、以テ不問ニ附スルコトニシタノデアリマス、斯様ナ階段ヲ經テ初メ

スルガ、本案ノ爭點ハ、貴族院多額納稅者議員互選規則第一條第一項ノ定ムル互選資格要件ノ一タル住居ノ事實ノ有無ニ存スルノデアリマシテ、原告ハ、被告ニ此ノ要件ガ缺ケテ居ルコトヲ理由トシテ、被告ノ當選ヲ無効トスル判決ヲ與ヘラレタキ旨ヲ申立デタノデアリマス、互選規則第一條第一項ニハ「貴族院令第六條ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ互選人名簿調製ノ期日迄引續キ一年以上北海道又ハ各府縣ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ」斯ウアリマシテ「住居シ」ト云フ働キヲ示ス言葉、即チ動詞ヲ用ヒテマスガ、住居スル狀態ガ住居ニ外ナラスノデアリマスルカラ、便宜上「住居」ナル名詞ニ付テ解説スルコトニ致シマス、住居又ハ「スマキ」ト申シマスレバ、古クカラ人ト土地トノ定著關係ヲ示ス語トシテ通俗ニ言ヒ慣ラハサレテアリマシテ、從ッテ何ガ住居デアアルカト云フコトハ、世上一般ニ解ッテ居ル譯デアッテ、即チ社會通念ノ上カラハ、各人ガ其ノ生活上常住ノ意思ヲ以テ一定ノ場所ニ現實ニ居住スルト云フコトガ住居デアリマス、而シテ此ノ通俗語ガ法制上ノ用語トサレタ場合ニモ、特別ノ理由無キ限りハ同ジ意味ヲ持ッテ居ルト見ナケレバナリマセヌ、デアリマスルガ、苟モ常住ノ意思ヲ以テ現實ニ居住スルコトニ因ッテ住居ガ定マルモノデアルトシマスレバ、住居ハ本來唯一ツデアアルベキ譯デアッテ、民法ノ言葉ヲ借りテ申シマスレバ生活ノ本據ガ住居デアリ、從ッテ住居ト民法ノ謂フ住所トハ自ら合體セネバナラヌ道理デアリマス、言ヒ換ヘレバ、文字通りニ住居ノアル所ガ住居デナケレバナリマセヌ、

唯文化ノ進歩ニ從ヒ社會事情ガ益々複雑トナリ、交通ノ利便モ亦愈々開ケルコトニナリマスレバ、現實ニ居住スル場所ガ二ツモ三ツモ出來ルコトニナルハ紛レモナイ實際ノ事實デアリマス、或ハ職務ノ爲、或ハ事業ノ爲、或ハ保養慰安ノ爲、或ハ兒女ノ教育ノ爲ト云ツテヤウナ種々ノ事情カラ、一人ガ二箇以上ノ場所ニ居住スルコトニナリマシテ、ソレガ何レモ普通ニハ住居ト總稱サレテアルノデアリマセウガ、法律上ノ取扱トシテハ、幾ツモノ住居ガアツテハ何カト支障ヲ生ジ易イカラ、適當ノ標準ヲ立テテ其ノ一ツダケヲ住居トスルト云フコトモ亦當然ノコトデアリマス、社會通念ノ上カラモ、住居即チ本住居又ハ主タル住居ト云フモノト假住居トハ、自ラ區別サレテアリマシテ、ソレヲマア漢字デ書キマスレバ住居ト寓居又ハ僑居トノ區別ニナルト云フコトハ少シモ不思議デアリマセヌ、而シテ普通ニハ、常住ノ意思ヲ以テ居住スル所ガ住居デアツテ、常住ノ意思ナクシテ居住スル所ガ假住居トシテ差支アルマイト思ヒマスルガ、社會事情ノ複雑シタル實際ニ於テハ、常住ノ意思アル住居ニ居住スルコト却テ少ク、常住ノ意思ナキ假住居ニ居住スルコト多イ場合ガ幾ツモアリマシテ、結局居住ノ時日ノ長短ハ必ズシモ住居ノ存否ヲ定ムル條件トハナラスト云フコトガ、今日ノ現實ノ狀態デアリマス、要スルニ住居ノ現實ノ狀態デアリマス、要スルニ住居ハ、常住ノ意思ヲ以テ現實ニ居住シテ居ル事實ガアレバ成立スルノデアツテ、是ガ即チ社會通念トシテノ住居デアリマス、今茲ニ他ノ法令ニアリマスル住居ノ意義ヲ詮索スルコトハ暫ク措キマシテ、専ラ互選規則ニ付テ見マスルニ、其ノ謂フ所ノ住居ハ、社會

通念ノ住居ト毫モ異ナル所ハナク、常住ノ意思ヲ以テ現實ニ居住スルコトヲ意味スルノデアリマシテ、而モソレダケノ要素ガ存シテ居リマスル以上ハ、居住ノ時日ノ長短ハ考慮ニ入レル必要ハナク、又社會事情ノ變遷益々著シイ今日ニ於テハ、其ノ必要ノナイコトモ益々明カニナル譯デアリマス、互選規則ガ初メテ制定サレタ明治二十三年ニ遡ッテ考ヘテ見マスレバ、當時ハ法律思想尙幼稚デアリ、今日ノ如キムツカシイ理窟ナドハ知ラレテナカッタ時代デアリマシテ、「住居」ナル語モ「住所」ナル語モ、共ニ用ヒラレテハアリマシタガ、此ノ兩語トモ當時ノ社會通念ヲ本トシテ用ヒラレタニ相違アリマセヌ、而シテ舊規則ハ、一般法令ノ變更廢止頻々タリシニ拘ラズ、長イ間手ヲ著ケラレタルコトナク、大正十四年ニ至ッテ初メテ改正サレタノデアリマスガ、互選資格ノ要件ニ關スル第一條第一項ノ規定ハ、舊規則ノ規定ガ其ノ儘踏襲サレテ居ルノデアリマスルカラ、住居ノ意義ニ於テハ變リハナイト見ナケレバナリマセヌ、而モ互選規則ハ、其ノ住居ヲ本籍並ニ納稅ト關聯サセ、其ノ土地ニ本籍ヲ定メテ住居シ且多額ノ直接國稅ヲ納ムルコトヲ要件トシテ居リマスルカラ、規則ノ狙ッテ居リマスル住居ハ、社會的生活ノ上カラモ、經濟的生活ノ上カラモ、本籍地ト密接離ルベカラザルノ關係アツテ存スルモノデアツテ、從ッテ常住ノ意思ヲ以テ居住スル住居デナクテハナラヌコトハ言フ迄モナク、即チ本住居或ハ主タル住居トモ謂フベク、又實質上カラハ民法ノ所謂生活ノ本據ニ該當スルモノトモ見得ベキデアリマスルガ、假令職務上其ノ他ノ特別ノ事情ニ依ッテ常住ノ事實ハナイニシテ

モ、苟モ其ノ土地ニ邸宅ヲ有シ、隨時歸住シ、從前カラノ社會的經濟的生活ノ關係ヲ繼續シテ居ル以上ハ、現實ニ居住スルモノタルコトヲ失ハヌノデアリマシテ、規則ノ狙ッテ居ル住居ハアルト認メナケレバナリマセヌ、若シ夫レ職務上其ノ他ノ特別ノ事情ニ依ッテ他ノ場所ニ居住スル事實ガ、他ノ法令ノ下ニ於テドウ取扱ハレテ居ルカト云フコトハ、自ラ別問題デアツテ、互選規則ノ關係スル所デハアリマセヌ、而シテ斯カル見地カラハ、互選人ガ其ノ本籍地ニ於ケル地方議會ヤ衆議院ニ關スル選舉人名簿ニ記載サレズシテ、却テ現居住地ニ於テソレニ記載サレテアルト云フガ如キ事實ハ、反證ノ力ヲ有スルモノデハナイノデアツテ、即チ互選人ガ本籍地ニ住居セザルコトヲ證明スル材料トハナラヌノデアリマス、更ニ貴族院令ガ多額納稅者議員ヲ設ケタル精神ヲ考ヘマスレバ、各地方ニ於ケル素封家或ハ豪族ト云ツテヤウナ者ヲ以テ之ニ充ツルニ在ツコトハ明白デアリマスルガ、素封家或ハ豪族ト申シマスレバ、祖先以來其ノ土地ニ於テ社會上、經濟上、重要ノ地位ヲ占メ、地方ノ信望ヲ集メタモノニ外ナラヌノデアツテ、互選規則ガ本籍ヲ互選資格要件ノ一ツトシタノハ、畢竟此ノ精神カラ出テ居ルモノト見ナケレバナリマセヌ、本籍ハ其ノ性質上所謂墳墓ノ地ニ在ルベキデアリマシテ、我が社會組織ノ特色タル家族制度ノ上カラ至ッテ重要ノモノデアルニ拘ラズ、社會事情ノ變遷ニ伴ヒ、現今ハ殆ド形式的ノモノトナッテ居リマスルコトハ頗ル遺憾ニ堪ヘナイノデアリマスルガ、互選規則ハ尙且本籍ヲ以テ資格要件ノ一ツトシ、其ノ本籍ノ存スル所ニ住居スベシトスルノデアリマスル

カラ、此ノ場合ノ住居ガ、其ノ所在地ト社會上經濟上特ニ密接ノ緣故アルベキモノデアルト云フコトハ、益々以テ明白デアルト謂ハナケレバナリマセヌ、以上申述ベタヤウナ觀方ニ依リマシテ、本件ニ關シテ當事者雙方ヨリ申立テタ事實並ニ證據書類ヲ檢討致シマシタ結果、委員會ハ全會一致ヲ以テ、被告ガ互選地ニ於テ住居スル者デアツテ、互選規則ノ定ムル資格要件ヲ備フル者デアルトノ結論ニ到達シタノデアリマス、斯様ニ申上ゲマスレバ、互選規則上、住居ノ意義ハ平易明瞭ニシテ少シモ疑義ヲ遺サナイ譯デアルガ、ソレニモ拘ラズ今日迄一度ナラズ爭訟ノ種トナリ、而モ大正十四年ノ改正規則後ニ於テ特ニ著シイヤウニ思ハレルノハ何故デアルカ、ソレ迄申述ベナケレバ委員會ノ審査ハ未ダ盡サザルノ感ガアリマスルカラ、少シク附加ヘテ申述ベタイト思ヒマスルガ、一言以テ覆ヒマスレバ、政府ノ當局者ガ「住居」住所「兩語」ノ用例ヲイデクリ廻シタ結果デアルト申シテ、敢テ憚ル所ナイト思ヒマス、而シテ委員會ニ於ケル政府委員トノ間ノ質疑應答ハ、此ノ點ニ集中サレタ言ツテモ宜イ程デアリマシタ、抑、法令ノ文章字句ハ、特別ノ理由ナキ限りハ普通ノ意義、即チ社會通念上ノ意義ニ解スベキガ、成文法解釋ノ準則デアルト云フコトハ言フ迄モアリマセヌ、而シテ人ト土地トノ定著關係ヲ示ス本籍、住居、住所ノ三ツハ、本來合體スベキモノトスルノガ普通ノ意義デアツテ、舊民法人事編ニハ此ノ意味ノ規定ガ載セラレテアツタノデアリマス、本籍ニ關スルコトハ別問題トシマシテ、住居、住所ノ兩語ノ用例ヲ見マスルニ、刑法ニアル住居、帝國憲法ニアル住所ハ、専ラ私生活ノ安全ヲ保障スルガ爲

ノ規定ノ中ニ用ヒラレテアリマシテ、是ハ、全ク特別ノ意義ヲ持ツテ居ルモノト見ナケレバナリマセスガ、一般法令ニ於テ兩語ガ並用サレタノハ、明治二十二年發布ノ市町村制ガ最初デアッテ、何レモ普通ノ意義ヲ以テ用ヒラレテアッタト云フコトハ、附屬理由書ニ依ッテ知ラレマスル同時ニ、住居ガ一人ニシテ二以上アリ得ルコトハ、明文ノ上ニモ現レテ居タノデアリマス、之ニ次イデ發布サレタ衆議院議員選舉法、貴族院多額納稅者互選規則ニモ此ノ兩語ガ載ッテ居リマシテ、其ノ意義ニ變リハナカッタノデアリマス、明治三十一年ノ現行民法ガ、各人生活ノ本據ガ住所デアルコトヲ規定スルニ及ビマシテ、法律上ノ議論ガ漸クヤカマシクナッテ參リマシタ、生活ノ本據ガ如何ニシテ定マルカト云フコトニ付テ、意思ヲ主トスル主觀說ト、事實ニ重キヲ置ク客觀說トガ分レ、又ハ本據ハ唯一ノモノタルベキカ、二以上アリ得ベキカニ付テモ、學說ガ分レタノデアリマスルガ、通說ハ住所ガ一人一箇タルベシト云フコトニ歸著シタノデアリマス、ソコデ住所ト住居トノ法律上ノ觀念ニ喰ヒ違ヒヲ生ジタノデアリマスルガ、住居ノ存スル毎ニ選舉權ガアルト云フノデハ、選舉權ノ平等性ニ反スル結果トナルノデ、市町村制モ衆議院議員選舉法モ一時「住居」ナル語ヲ全部「住所」ニ改メタノデアリマス、然ルニ住所ト云ヒ、住居ト云ヒ、民事關係ノ問題ニ付テハ殆ド實用ナク、専ラ公法關係、殊ニ行政上ノ取扱ニ付テ實用ヲ見タノデアリマシテ、住所ニ關スル裁判所ノ解釋ハ主觀說ニ傾キ、本人ノ意思ヲ主トスルコトニナッタ結果、一旦定メタ住所ハ、本人ガ變更セザル限り住所デアリ、又本人

ノ都合次第何時デモ變更サレ、恰モ本籍ト同様、殆ド形式的ノモノトナリ、有名無實ノモノトナッテ來タノデ、現行選舉法ハ逆轉シテ、専ラ「住居」ナル語ヲ用ヒ、市町村制ハ、公式資格ノ要件トシテハ、住所ニ住居ガ伴ハナケレバナラヌト云フコトニ改メタノデアリマス、而シテ其ノ當時改正理由書トシテ公表サレタモノニ依リマスレバ、「改正法」ノ所謂住居トハ人ノ生活ノ本據タル住所デアッテ、且之ニ有形的設備(スマキ)ノ加ハリタルモノヲ指稱スルモノトス、ト斯ウアリマス、又「故ニ同一人ニ付同時ニ二以上ノ住居アルコトハ絕對ニ之ヲ認めナイ」、ト斯ウアリマスルガ、要スルニ住所ト住居トガ合體スベキデアルト云フコトハ、社會通念ト敢テ異ナル所ナシトシマスルモ、斯カル理由書ヲ公表シテ、住居ハ住所ニ伴フベキデアリ、一人一箇ニ限ルトシタト云フコトハ、當局者ガ、一方ニハ最初ノ市町村制以來ノ二以上ノ住居アリ得ルト云フコトガ頭ニコビリ付イテ居リ、他方ニハ觀念法學ニ基ク民法ノ住所ノ觀念ニ累ハサレテ居ッテ、已ムヲ得ズ無用ナ小細工ヲシテ、公民權、選舉權ノ平等性ヲ保持セムトシタ消息ガ自ラ窺ハレマス、其ノ當時カラ、今日モ相變ラズ、內務當局ノ説明ニハ、住所アツテ住居ナキ者ノ例トシテ、淺草ノ觀音堂ノ縁ノ下ノ乞食ガ學ガレテ居ルノデアリマスルガ、乞食ガ浮浪人ニ住所ガアルト云フコトガ、私共ニハ既ニ分リ兼ねル、無宿トカ一所不住トカ昔カラ言ヒ慣ハサレテ居リマスル如ク、住所ヲ持タス者ガ實際アルト云フノガ常識デアリマスマイカ、觀音堂ノ縁ノ下ノ乞食ヲ巡查ガ追出シタ場合ニ、內務當局ハ刑法上ノ住居ノ侵入罪ヲ構成シ

タモノト見ルノデアリマセウカ、マサカソノナコトハアルマイト思フ、所謂觀念法學ノ弊ニ陷ッテ、徒ニ論理ノ遊戲ヲ爲スモノニ過ギマセス、而モ右ノ理由書ニアル理由デハ、互選規則ノ住居ノ説明ハ早速困ルコトニナッテ、住居ハ矢張り二ツ以上アリ得ルノデ、互選規則ノ住居ハ、改正選舉法ノ住居トハ意味ガ違フ、改正選舉法ノ住居以外ノ住居デアルト云フヤウナ説明ヲシテ、本件ノヤウナ場合ニ互選資格ノ要件ガ缺ケテ居ナイトスルコトニ努メテ來タノデアリマス、是デハ世ノ中ガ承知スル譯ニハ行キマセス、況シテ改正互選規則ハ、改正選舉法ト同時ニ出來タモノデアッテ、同時ニ公布サレタ法令ノ同一ノ用語ガ意義ヲ異ニスルト云フヤウナコトデハ、法令ノ威嚴ニモ關スル次第デアリマス、斯カル無理ナ解釋ヲスルカラ、ソレガ疑惑トナッテ當選訴訟モ從ッテ起ルコトニナリマス、法令ノ規定ハ總テ社會事實ノ推移ニ應ジ、事物ノ現實ニ即スルヤウニ適用サレネバナリマセス、ソレガ法令執行ノ任ニ當ル者ノ職責デアリマス、觀念法學ノ弊ニ陷ッテ居ル者ハ、獨リ行政ノ當局者ニ限りマセス、裁判官モ亦同様デアッテ、民法上ノ住所ヲ有名無實ノモノトシテシマッタノハ一ニ之ガ爲デアリマス、主觀說トカ客觀說トカ、無用ナ議論ノ遊戲ハ止メニシテ、現實ニ生活ノ本據ノ存スル所ガ住所デアルトスレバ、自然ニ住所ト住居トハ唯一ツノモノトナリ、社會ノ實情ニモ適ヒ、社會通念トモ一致シマスル、本籍ノ觀念ニ付テモ同様ノコトガ言ヘマス、家族制度ノ特色ヲ維持スル必要ガアリマスレバ、原則トシテ墳墓ノ地以外ノ本籍ヲ認メナイコトニスレバ宜イ、然ラザレバ住所ノ存ス

ル所ニ本籍ノ存スルコトニシテシマフ方ガ、無用ノ煩瑣ナ手續ニ苦シメラレタリ、種々ノ間違ヲ生ゼシテ濟ムノデアリマス、斯カル問題ハ立法上ニモ考慮スベキ必要モアリマセウガ、先ヅ法令適用ノ上ニ於テ大イニ注意シナケレバナリマセス、本籍ト言ヒ住居ト言ヒ、住所ト言ヒ、皆社會生活ノ基本觀念デアリニ拘ラズ、勝手ニイデクリ廻サレテ居テハ迷惑千萬デアリマス、此ノ機會ニ於テ是等ノ點ニ付テ政府ニ警告シ置クベシト云フコトモ、亦委員會ノ一致シテ意見デアッタノデアリマス、本席ニハ政府委員ハオイデニナラヌヤウデアリマスルガ、適當ノ機會ニ於テ事務局カラ此ノ警告ノ旨ヲ御傳ヘ戴キタイト思ヒマス、要領ヲ摘ンデ申上ゲタニモ拘ラズ、大分長クナッテ恐縮ニ存ジマスルガ、委員會ハ、互選規則ノ適用ニハ專ラ立法ノ精神ニ鑑ミ、又社會事物ノ現實ニ即應スベシトノ建前カラ、被告長谷川赴夫君ノ當選ハ無効ニアラズト決定シタノデアリマス、決定理由ノ細カイ點ニ互ッテハ、委員會ノ內部デモ可ナリ議論ヲ闘ハシタノデアリマスルカラ、皆様ノ中ニモ多少ノ御意見モアラウト存ジマスル、要スルニ議決ト言ヒ、議決理由ト言ヒ、其ノ正否ハ貴族院ノ權威ニ關スルコトニナルノデアリマス、篤ト御考量ヲ願ッテ贊否ヲ定メテ戴カナクテハナラスコトハ言フ迄モアリマセスガ、先ニモ申上ゲマシタ通り、今回ノ議決ハ本當ノ意味ノ當選訴訟ニ對スル初メテノ判決トナルノデアリマスルカラ、全員一致ノ御贊同ヲ得マスレバ、貴族院ノ權威ヲ示スコトニ於キマシテモ此ノ上ナイコトト存ジマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナ

ケレバ、採決ヲ致シタイト存ジマス、資格審査委員長ノ報告通りテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第七ヨリ第十三迄ノ請願會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

意見書案

霧中大洋ニ於テノ船舶衝突豫防ニ關スル件

名古屋市港區熱田新田東組字根走九十九番地平民稻垣諭治郎呈出

右ノ請願ハ近時船舶ノ速力益船型増大シ之等船舶ノ數ヲ増加セシカ霧中、降雪、暴雨中ノ大洋ニ於テハ各船舶殆ト全速力ヲ以テ航行スル爲海難ノ頻出シツツアルハ甚遺憾ナルニ依リ請願人所案ノ如キ方法ヲ考究シ海上衝突豫防法ノ改正又ハ關係國間ノ協定等ヲ以テ大洋ニ於ケル之等船舶ノ衝突豫防ニ盡力セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十五年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣米内光政殿

意見書案

能登鐵道買收並豫定線三明、能登三井間鐵道速成ノ件

石川縣羽咋郡富來町長柏谷貞治外十二名呈出

右ノ請願ハ能登鐵道ハ曩ニ地方開發ノ爲沿線各町村民ノ犧牲ニ依リ、羽咋、輪島間鐵道ノ建設ヲ企畫シタルモ羽咋、三明間ヲ敷設開通シタルニ過キスシテ財界ノ不況ニ際會シ遂ニ三明驛以北ハ著工ニ至ラス免許失効トナリ之方爲沿線住民ノ打撃甚シキニ依リ速ニ同鐵道ヲ買收スルト共ニ豫定線三明、能登三井間鐵道ヲ速成シ以テ地方産業ノ振興、福利ノ増進ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十五年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣米内光政殿

意見書案

早害救済施設ニ對シ國庫助成ノ件

島根縣松江市島根縣農會長恒松於菟二外二百一名呈出

右ノ請願ハ昭和十四年島根縣地方ヲ襲ヘル旱魃ハ全縣下ノ農林、牧畜業ニ激甚ナル損害ヲ與ヘ罹災農民ノ慘狀名狀スヘカラサルモノアリ政府ハ直ニ之方應急對策ヲ講セラレタルモ其ノ範圍程度不十分ニシテ當面ノ窮狀ヲ救済打開スルニ足ラサルノミナラス次期生産ノ確保並旱害防止ニ必要ナル恒久的施設ノ確定期シ難キニ依リ速ニ政府ハ更ニ強力有效ナル國庫助成ノ途ヲ講シ以テ重要農林產物ノ増殖ト農業經營ノ安定トニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

ニ依リ別冊及送付候也

昭和十五年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

意見書案

五戸鐵道五戸、花輪線毛馬内ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

青森縣三戸郡戶來村長小坂甚一郎外二十名呈出

右ノ請願ハ青森縣五戸鐵道五戸驛ヨリ同縣三戸郡倉石村、戶來村及秋田縣鹿角郡大湯町ヲ經テ花輪線毛馬内驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ太平洋方面ニ於ケル八戸港ト日本海方面ニ於ケル能代、土崎、船川ノ諸港トヲ結フ捷徑トシテ運輸交通並産業上資スル所多大ナルノミナラス國防上亦須要ナルニ依リ速ニ之方實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十五年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣米内光政殿

意見書案

鋼網本線標茶、根室本線厚岸ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

北海道厚岸郡厚岸町長齋藤市呈出
右ノ請願ハ鋼網本線標茶驛ヨリ茶安別、太田ヲ經テ根室本線厚岸驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル農牧適地ノ開發及之ニ伴フ各種産業ノ振興上多大ノ裨益アルノミナラス良港厚岸港ト相俟テ釧路、根室、北見三國ノ運輸交通上貢獻スル所大ナルニ依リ速ニ之方實現ヲ期セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

現期セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十五年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣米内光政殿

意見書案

水産會ノ活動促進ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ我國漁村ノ現狀ニ鑑ミ之方指導機關タル系統水産會ノ活動ヲ振作スルハ喫緊ノ要務ナルニ依リ之ニ對スル國庫補助ノ増額及水産會法ノ改正等ヲ爲シ以テ統後對策其ノ他指導ノ徹底ヲ期スルト共ニ水産團體ノ整理統合ヲ行ヒ水産業全般ノ統制アル飛躍ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十五年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣米内光政殿

意見書案

水質汚濁防止ニ關スル件

東京市日本橋區室町四丁目一番地大日本水質保護聯盟會長伯爵川村鐵太郎呈出
右ノ請願ハ輒近都市ノ發展ト各種工業並海運業ノ發達ニ伴ヒ都市、工場、船舶等ヨリ投流、遺棄漏泄ノ汚物、廢液、油類等

ニ因リ河川及内灣、沿岸ノ水質著シク汚
濁セラルルハ水族ノ蕃殖、育成ヲ阻害シ
水産業者ニ甚大ナル打撃ヲ與フルノミナ
ラス一般原始産業ニモ其ノ累ヲ及ホシ且
風致ノ維持並保健衛生上甚遺憾ナルヲ以
テ速ニ請願人所案ノ如キ水質汚濁防止ニ
關スル對策ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシ
テ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノ
ト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ
別冊及送付候也

昭和十五年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣米内光政殿

○議長(伯爵松平賴壽君) 是等ノ請願ハ、
請願委員長ノ報告通り採擇致シテ御異議ハ
ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第彙報
ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散
會致シマス

午前十一時四十六分散會

貴族院議事速記録第十五號正誤

頁	段	行	誤	正
一五〇	四	一四五	徴發サ手	徴發サレ手
一五一	二	三二	サレテ	サシテ
一五二	三	六七	貨幣ダト	貨幣ナド、
一五三	〃	二	象ト	象ヲ
〃	〃	二八	綴リ、上	綴リノ上
一五四	〃	四一	之ヲ拾ヒ	之ヲ攢メ
〃	四	一	的ナ	的ニ